三富小学校

「進んで学び、互いに高めあう児童の育成」

～話し合いを中心とした、伝え合う力を育てるための手だてを通して～

Ⅰ　研究の内容

1，研究仮説

国語科を中心とした教科・特別活動および総合的学習の時間において、話し合いを取り入れることによって、進んで学び、互いに高め合う児童を育成することができるであろう。

2，研究の具体的内容と方法

（1）話し合いを取り入れた授業実践・授業研究へ取り組む。

・授業研究はブロック研究を基盤にして進める。低・高学年ブロックより各１学年が全体に検証授業を提案し全体会で協議を行う。指導助言者を招いて，授業と研究内容について指導・助言をしてもらう。

・検証授業をする学年以外も一人一実践として授業公開を行う。なるべく全員が参観し相互の学習の機会とする。

・話し合いの進め方について掲示などを利用し，継続して指導する。

（2）話し合いを中心とした伝え合う力をつけさせるための理論や先行研究を学び，共通理解のもと全職員で研究を進める。

・伝え合う力を支える，聴く・考える・書く・話す力について，共通理解を図り，それらを身につけさせるための方法について研究を深める。

・先進校の実践や文献，参加した研修会などの伝達をする学習会を行う。

（3）聴く・話す力，読む力の向上に向けた継続した取り組みを行う。

・聴き方、話し方における基本を明確にし，「聴く話すためのチェックポイント」を掲示する。

・学び方アクションシートを活用し，指導の改善（７月・１２月）に生かす。

・スピーチ広場を実施し，聴く話す機会を設ける。

・家庭への啓発を行い，親子読書に取り組む。

・読む活動の発表を行う。

（4）学習指導要領改訂に伴う教育課程の見直しを行う。

（5）その他

・「進んで学ぶ児童」に関する実態調査を行う。

・Ｑ－Ｕについて学習し，調査・分析を児童理解に役立てる。

・各学年に応じた情報処理能力の習得と、学習活動の中での教育ソフトやコンピューターなどの活用を行う。

Ⅱ　成果と課題　（成果◇　課題◆）

（１）について

◇話し合いの場を設定したことで、より明確に研究を進めることができた。

◇授業実践の中で、子供たちが「話し合い」に意欲的に取り組み、自分の考えを伝えようとしたり、友だちの考えを理解しようとする姿勢が見られた。

◇検証授業では、共に研究していくという姿勢があり、授業者だけでなくブロック全員が自分のこととして取り組み、学ぶことができた。

（２）について

◇お互いに授業を見合い、お互いに学び合うよい機会になった。

（３）について

◇話に対して「はい」の返事や「ありません」などの反応ができつつある。指導する側の意識が子どもに影響を与えると感じた。

◇スピーチ広場や親子読書は継続して取り組んだことにより、かなり定着してきていると思う。特にスピーチ広場は異年齢の児童間で行うことにより刺激もあり、効果がかなり大きかった。少人数の学校でクラス内で切磋琢磨の機会があまりないだけによい機会になっていた。

（４）について

（５）について

◆研究組織で「読むこと」と「話すこと」の活動を特設した形で取り組んだが、担当した人の負担が大きいところがあったので、形を考え直す必要があると思う。

Ⅲ　成果物

１，検証授業授業案

○２年　国語科　「お手紙」　…　授業者　志村 克人

○５年　算数科　「面積の求め方を考えよう」　…　授業者　奥山 美恵

２，一人一実践授業授業案

○１年　算数科「どんなけいさんになるかな」　…　授業者　松岡 めぐみ

○３年　算数科「間の数に目をつけて」　…　授業者　竹川 かずみ

○４年　国語科「いろいろな言葉遊び」　…　授業者　山田 勝博

○６年　社会科「基本的人権と裁判」　…　授業者　八巻 恵子

３，その他

○各学年の聴く・話すチェックポイント（掲示用）アクションシート（チェック用）

○声に出してほしい名文・言葉の校内掲示用資料

○読書活動の推進、親子読書への取り組みに関わる資料

○スピーチ広場のワークシート、計画表

（研究主任　　松岡めぐみ）